
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

北小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.07.14 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.11.14 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.07.12 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.11.09 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.08 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.08 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.07.07 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.29 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、話し合いました。
テーマ「地域防災の連携強化の方法を考えよう！」(P6-8 掲載)

◎：市の意見・回答

⇒：課題解決に向けた取り組み事例

(※担い手略称 自：自治(町)内会、民：民生委員、子：子ども会、保：保健委員、ス：スポーツ推進委員)

課題		担い手
防災訓練	①訓練内容	<p>▲訓練を撮影しておくで参加者・反省点・改善点など全て分かる。引継ぎの時も前年の様子が分かるので、ぜひ参考にしてほしい。</p> <p>◆消火器や救護等の基本訓練は毎年実施するべき。</p> <p>◎夜間の救出訓練や、取り壊す予定の家を使った訓練なども参考になる。</p> <p>◇◆魅力のある訓練、楽しく参加できる体制をつくりたい。</p> <p>◎県の地震防災センターで訓練事例を教えてもらってはどうか。</p> <p>◆起震車やスモークハウスは制限があり自由に使えない。市は自治会が訓練で簡単に利用できるものと考えてほしい。</p> <p>◎救急車や消防団がすぐ駆けつけられるとは限らない。「消火、救出、搬送を地域で行う必要が生じる場合がある」ということを念頭に訓練を検討してほしい。</p> <p>◇「黄色いハンカチ」を配布する際、自治会への加入促進を図りたい。</p> <p>◆□単身・マンション・アパート世帯の黄色いハンカチ掲示が少ない。徹底してほしい。</p> <p>◎高齢者の黄色いハンカチや笛の紛失を防ぐため、各自の情報を貼っておく場所(冷蔵庫の扉、玄関等)に、一緒に保管してもらおうといい。</p> <p>◇小学生のための防災訓練のプログラムを作って欲しい。</p> <p>□子どもは普段の生活にない物にすごく興味を持つ。そこから始めてみると良い。(段ボールハウス、簡易トイレの展示、アルファ米試食など)</p> <p>□訓練の事前講習をして中学生が率先して訓練を実施している自治体もある。</p>
	②参加促進のための工夫	<p>●◇他の自治体のマンネリ化対策や訓練参加率を上げる方法、内容について、良い方法があれば知りたい。</p> <p>⇒◇◆青年部・商工会・しゃぎりの会などに訓練案の提出を依頼。各団体の協力で若者を含め参加者倍増。(一番町)</p> <p>⇒□訓練後の懇親会を継続した結果、子どもも大人も参加増加。(文教町西)</p> <p>□訓練日を特定し参加できる条件を作った上で訓練を実施すれば、大勢の小中学生が参加し意識も高まると思う。</p> <p>◇日大を巻き込むなど大学生や単身者も参加する方法を考えたい。</p>

	課題	担い手
	<p>□大学生が地域に何人住んでいるのか、まず把握しないとイケない。いざという時には、大学生ボランティアは力があり、融通がきく。もう少し声かけが必要。</p> <p>□日大関係者からも意見を聞けるよう、この場への参加を検討してほしい。</p>	校区全体
③防災組織の体制強化	<p>◇個人の備え、組単位、隣近所で助けあうことが大事。コミュニケーションは、お祭りなどのイベントを通して築いていく。</p> <p>□継続は大変だが一番重要。すぐ効果を求めず、時間をかければ防災意識や訓練への理解が育っていく。</p> <p>◇多くの組長が災害時の自分の取るべき行動をわかっていない。3役含め組長、リーダーの理解を徹底したい。</p> <p>◇災害時、怪我をせず家が住める方は避難所へ避難しないことを周知したい。</p> <p>◆災害時に正確な道路情報を取得し、迅速な救護活動に繋げる取り組みをしたい。</p> <p>⇒◆パソコンを活用し、訓練参加人数や参加率等の情報をその場で共有した。(大宮町3丁目)</p> <p>⇒◆緊急連絡名簿を作成し、各家庭把握した。(文教町東岩崎)</p> <p>◎各町内で訓練時の保健委員の役割を考えてほしい。</p> <p>◎校区内にはマンションが多数あり、災害時一番問題が起きる。各マンションで災害対策を話し合っしてほしい。</p> <p>⇒□ジュニアレスキュー隊を結成。救急救命や防災講座などを経験することで、中・高校生でも防災に関心を持ち地域に貢献できる。(シャルワッポ)</p> <p>◇東日本大震災では、日頃の訓練に参加しなかった方が亡くなったことを広く認識してもらいたい。</p> <p>⇒◇自治会で防災の勉強会を実施。(文教町東岩崎、中央町2区など)</p> <p>◇勉強会への参加が主に防災委員だけになっている状況。改善したい。</p> <p>◇東北視察で学んだことを、3町合併後の新体制で活かしたい。(芝本町)</p>	<p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自・保</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p>
④避難所の整備	<p>○震災時、マンションは非常に危険。逃げる場所を検討中。</p> <p>●1次避難所をみんなが認知する必要がある。</p> <p>◆何かあった時のためにも上岩崎公園に電源を確保してほしい。</p> <p>◆中央幼稚園跡(一次避難所)は常時鍵がかかり資材置き場になっている。市は災害時の対応を考えてほしい。</p> <p>◎避難所の指定は県が行う。鉄道利用者の避難所として JR の研修施設が利用できるかは県とよく話し合っていく。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p> <p>市</p> <p>自・市</p> <p>市</p>
⑤災害への備え	<p>●各町内会で、ジャッキ、リヤカー、一輪車、自転車、簡易トイレなどを用意しておくといい。</p> <p>◆水・備蓄食糧(1,000食では不足)が今後の課題。</p> <p>●昭和55年以前の建築物を把握し、倒壊に備えておく。</p> <p>◇日頃からの家具の固定、耐震補強、消火器の確認が大事。</p> <p>●可搬ポンプ、消火栓から放水できる備品等を各町内で防災倉庫に用意し、自分たちで使えるよう訓練してほしい。(消防団)</p>	<p>自</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p>

	課題	担い手
⑥要援護者の支援	<p>○災害時の要援護者の安否確認は、自治会が責任をもって行ってほしい。</p> <p>◆要援護者リストの活用方法をもっとPRしてほしい。</p> <p>⇒◇家族人数・要援護者の情報共有のため、個人情報公開を承諾された方のリストを自治会で作成し、公開した。(シャリエ三島耆町田)</p> <p>⇒◇◆訓練時、リストをもとに各組長が要援護者のいる箇所を確認した。また要援護者に車椅子の援助が必要かどうか確認した。(加茂川町2区)</p> <p>◇◆高層マンションに居住の高齢者、1人暮らしの高齢者の把握ができていない。</p> <p>◆要援護者リストの管理方法を知りたい。</p> <p>◇要援護者や負傷者、単身高齢者、家に残りたいという人などの安否確認や救助方法が課題。</p> <p>◇□災害発生が日中の男性不在の場合、また夜間の高齢者対応などが課題。</p> <p>◆救助用リヤカーや車椅子を購入したくても助成金不足。対策はないか。</p> <p>◆地域で要援護者を救助するため、各団体に協力をお願いしたい。</p> <p>⇒□各要援護者に担当者を決め、いざという時に駆けつける体制。(文教町西)</p> <p>◎要援護者に申し込まない高齢者等に関しては、封をしたリストを自主防災会に渡すので、万一の場合は封を開き安否確認をし、必要あれば救助をしてほしい。</p>	<p>自</p> <p>市・自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>市</p> <p>各団体</p>
⑦学校と地域の連携	<p>⇒◆学校から子ども達に訓練参加を呼び掛け、参加者増加。</p> <p>⇒□参加カードや参加証明書の取り組みを実施。(北小・北中)</p> <p>◆□学校から生徒たちへの訓練参加の呼び掛けを継続していきたい。</p> <p>◇中・高校生は戦力。できるだけ訓練へ参加してもらいたい。(東日本大震災の災害を視察するといいいのでは)</p> <p>◎在校時に震災があった場合、特に中学2・3年生男子は避難所準備等に参加させてほしい。</p>	<p>小・中</p> <p>中・高</p> <p>自・中</p>
⑧北小防災学習会の実施	<p>⇒◇PTA主催で防災学習会実施。各町内会長の協力があった。</p> <p>⇒◇児童は全員参加。保護者も多数参加し、防災意識が向上した。</p> <p>◇□保護者が訓練に参加し、災害発生時の行動を理解することも重要。</p> <p>□子どもを通して親も参加することで、自治会長の顔がわかり声をかけやすくなる。地域に興味を持つことで、防災教育、防災に対する意識を高めていく。</p> <p>◇□町内会としても今後も協力していきたい。協力するので声をかけてほしい。</p> <p>◆災害時の地域での行動がわからない家庭が多い。各自治会の規模や訓練内容が異なるため、目的の明確化、訓練内容が今後の課題。</p> <p>□学校の防災の中に保護者に入ってもらう、また地域の方に取り組みを紹介し、学校へ来て頂き顔見知りになる等の機会を作っていきたい。防災の火を消さない。</p> <p>→【■①テーマ別会議(P6-8)に発展】</p>	<p>自・PTA</p> <p>自</p>

	課題	担い手
地域の連携	<p>①顔の見える関係づくり</p> <p>○借家の人は町内活動参加率がかなり悪い。(加茂川町1区)</p> <p>●マンション住人が増えたが町内会には不参加。住人の構成が変わり、きずなづくりが課題となっている。(大宮町1丁目)</p> <p>◇単身者は把握できていないのが課題。(壺町田1丁目)</p> <p>□きずなづくりはすぐにはできない。まずは顔を合わせ、目的を持って前に進んでいくことで、力を合わせることに繋がっていく。</p> <p>◎北小は非行や犯罪が少し多い校区。安全、安心な地域にするためにも、顔見知りの方は声をかけあう地域づくりをしてほしい。</p> <p>○◇日頃からお祭り、イベント等を通じて顔見知りになることが大事。(井戸端会議、共通の趣味を持つ、集会所を利用するなど)</p> <p>⇒□趣味を活かした「ウォーキングとアウトドアを楽しむ会」を結成。</p> <p>○郵便物を確認するなど、高齢者の見守りを徹底していきたい。</p> <p>◇ボランティアと町内会が連携し、集会所を利用した街中カフェを検討中。今年は準備期間。(シャルマンコーポ)</p> <p>○園内だけでなく、外との繋がりをどう作っていくかが課題。(北幼稚園)</p> <p>○◆積極的に挨拶できる環境を作りたい。きずなづくりにつながる。</p>	<p>校区全体</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>幼</p> <p>校区全体</p>
	<p>②住人同士の協力・助け合い</p> <p>○▲焼却炉が築30数年、生ゴミが全体の49%を占め負担がかかる。ゴミ問題の啓蒙活動が必要。(環境美化推進員)</p> <p>○いちょう並木の清掃を地域の方と一緒にできたら良い。(北幼稚園)</p> <p>○町内に2つの校区と子ども会があり中途半端。(加茂川町1区)</p> <p>◇●□校区の運動会や様々な体育行事に参加を募っているが、参加者が少ない</p> <p>●□自治会と子ども会・学校(PTA)・各団体との連携が大事。協力しないと物事が進まなくなる。各団体巻き込めばお互いの顔もわかり、活動が広がるのでは。</p> <p>□人事異動で来る方は数年しかおらず、大半が単身赴任だと思う。自治会運営自体ここ数年危うく、地域の助け合いのレベルまでいかない。(合同宿舎文京住宅)</p> <p>△農兵節が高齢化のため衰退している。子どもたちに教える取組みを市で指導してほしい。地域のきずなづくりにつながるのでは。</p>	<p>校区全体</p> <p>各団体</p>

■ H26. 10. 29 テーマ別会議まとめ

<p>テーマ</p> <h2 style="margin: 0;">「地域防災の連携強化の方法を考えよう！」</h2>

● 「子ども」「大学生」「高齢者」「地域(親)」が地域防災に関わった時、「どんな事ができるか?」「どんな防災訓練プログラムがいいか?」など参加者全員から出されたアイデア・ご意見をまとめました。

「子ども」
を対象にした地域防災
 子供に何を教えたいか?
 体験させたいか?

- ★子供達の防災意識向上を目指す**
- 自分の命は「自ら守る」を徹底する。
 - 過去の(災害)体験話を、小・中学校で話す。身近な事例を子ども達に伝える。
 - 「津波てんでんこ」意識の実践。

- ★責任、役割を持たせる**
- 小学生だけの避難シミュレーションを行う。
 - 子どもたちで災害時できることを考えてみる。
 - 小学生からスタートさせる。
 - 小・中・高・大学同時の防災訓練の実施。全員を一ヶ所に集める。
- ⇒上の子が、責任を持って下の子の面倒をみる意識を目覚めさせられるのではないか。
- 子ども達自身にやらせることで、責任感を持ち子ども達は活き活きとしてくる。

- ★訓練プログラムのアイデア**
- 子どもと大人で炊き出し訓練＝遊びながら楽しく時間を共有する。←町内にアウトドアサークルを作って実施している。
 - いざという時(防災、災害)に生き延びるテクニックサバイバル教室。遊びを混ぜる。
 - 消防団第4分団の防災訓練で、応急担架等の訓練を小・中学生が前に出て実践する。
 - シャルマンコーポの自主防災訓練では、AEDの操作を小中学生に指導している。継続できれば、将来看護の面で大きく役立つと思う。

- ★訓練へ参加を促す**
- 子ども達は楽しくなければ参加しない。1回責任を持って参加させられれば…。そのプロセスをどうしたらよいか課題。
 - 防災訓練を授業の単位とすれば参加し、責任をもって頑張ろうと思えるのではないか。

餅つき大会のビンゴゲームの準備から全てを、子ども会にやってもらったところ、積極的に動き非常にまくいった。(文教町西)

「地域全体(親)」
を対象とした地域防災

- ★合同訓練を開催する**
- SNS、地域メールを使った防災学習会。
 - 地域メールを使えば幅広く情報を知らせられる。
 - 小学校区全体の防災訓練を実施したい。
 - 町内の防災訓練に子ども会も参加。
 - DIG 研修。子ども、親、地域合同でやる。

- ★その他のアイデア・意見**
- 昼間は子どもと女性しかいないので、女性中心の防災訓練。
 - 各町内会の防災活動を合同の場で紹介しあって、情報共有する。
 - 自分にできる防災活動を考える。(地域・家庭)
 - 小中学校の防災学習会に参加。
 - まずは地域に住んでいる人を知る。
 - 消防団、連合会が小学校区と違うのはおかしい

「高齢者」 を対象にした地域防災

【高齢者の現状】

- ・地域の高齢化が進行。横の連携がありそうでない。情報交換や交流が必要。
- ・75歳以上になると訓練や行事から退いてしまう。
- ・元気老人と関わりをもってほしい。この方達を活用しない手はないと思う。

★元気老人を活用する

- 誰が昼間いる老人を助けるのか？元気老人を消防団員に！
- 高齢者が気軽に集まれる場所がありますか？元気高齢者を対象に「地域安心サポート要請講座」を開催しています。（地域包括支援室）
- 老人向けパソコンセミナーの開催。

「大学生」 を対象にした地域防災

【地域における大学生の現状】

- ・ゴミ出し、バイク等駐輪の仕方に問題あり。
- ・大学生は地域から一番離れた存在。地域に近付けるのは難しい。
- ・地元でない人も多い。数年したらいなくなるので、地域に関わらない。

解決に向け
地域と大学生
が密接に絡
んでいきたい

- ・被災時、交通ストップされ市内に居る学生は多い。お互いの助け合いが必要となるのは必然！
- ・学生を巻き込んで地域防災（自治会活動）に参加させる方法や、自治会に勧誘する方策を考えてほしいとの意見がある。

★大学・学生を地域に取り込むアイデア

- 住んでいる学生は全員住民登録をさせ、町内会員とならせることから始まる。
- 大学内に地域担当科を作ってもらい、地域に関わるようにする。

本日は意見やアイデア出しまででしたが、

本日の皆様のご意見を参考にできることから始めてみましょう！



地域防災の連携強化について話し合いを進めていく予定でしたが、話をしているうちに地域の問題として「大学生」がクローズアップされてきました。(以下○：参加者発言 ●：市発言 △：ファシリテーター発言)

★大学関係者にも話を聞きたい

- テーマに大学生のことがあがっているのに、なぜ大学関係者がいないのか？
- △大学に投げかける前に、まずは地域の中で、「学生とどの様に付き合っていきたいのか？」等話し合い、大学の誰と関わるのか、どの機関と関わるのかを含めはっきりさせるべき。また、大学(組織)と大学生(個人)は違うので、別に考えなくてはいけない。
- 大学生を呼ぶのが一番だと思うが、市長が来ているのだから学部長が来てもいいのではないかと？
- 大学生を呼ぶ場合、「実際に誰を呼ぶのか？学生の代表って誰なのか？何故、学生が呼ばれるのか？」など、その理由を説明するのが筋だと思う。一旦、大学生を呼ぶ理由を皆さんから出してもらって、大学側に伝え、その後大学生を呼び、また話し合いをするという形で考えている。
- 今日、小中学校の校長、幼稚園園長たちは参加してくれている。それなら、大学の職員をとりあえず呼ぶのが筋ではないか。
- 大学は小中学校などとは少し違う存在。一度こういった意見をもらった上で大学に話しに行くので、少し時間をかけさせて頂きたい。

★「地域住民としての大学生」へ呼びかける

- 今日のこの会議の雰囲気では大学生にプレッシャーをかけてしまう。あまり過剰に期待しないで、普通に扱って、逆に向うからもっとフリーな意見をもらったらどうか。
- 誰かがコーディネートして、地域からその地域にいる大学生に対し、「何か話をしませんか？」と気軽に呼びかけ、こういった話し合いの場に引き出してはどうか。
- 大学生に「自治会に入ってください」と言う人はいない。そこから始めてみると良いかもしれない。
- 大学生は数年したらいなくなってしまうので、地域に関わらない。
- 地域にいる主婦や独身者と同じように、「地域にいる個人としての大学生」に何を期待するかによって、アクションが変わってくる。
- 具体的に大学に何かを求めるといならば、大学は地域にある企業と同じで、大学組織に投げかければよい。
- △大学は地域の中にある組織として存在しているが、大学生は地域の住民。住民登録や、自治会に勧誘するなりして、地域の中から地域の人として働きかけてみるとよいと思う。

★コミュニティ連絡会に関する意見・提案

- この会議は意見を聞くだけで、解決する気はないのか？1年に2回しかない会議で、今回(2回目)で解決しなかったら、来年は新しい会長に代わってしまう。何かしら結果を出さないと無駄だと思う。「次回は最低でも大学の職員を呼んだほうが良い」という提案を実現してほしい。

補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼・小・中
シャリエ三島壺町田自治会	環境美化推進委員会	北幼稚園
シャルマンコーポ町内会	保健委員会	北幼稚園PTA
一番町町内会	民生委員児童委員協議会	北小学校
壺町田 1 丁目自治会	消防団第 3 分団	北小学校PTA
壺町田 2 丁目自治会	消防団第 4 分団	北中学校
加茂川町 1 区町内会	エコリーダー	北中学校PTA
加茂川町 2 区自治会	芝本町商店振興会	学校支援地域本部
県営壺町田やまがみ団地自治会	芝 J・B・C	
幸町町内会	地域包括支援センター	
合同宿舎文教住宅自治会	交通安全母の会	
芝本町町内会	地域づくりコーディネーター	
大宮町 1 丁目自治会	スポーツ関係	子ども会
大宮町 3 丁目自治会	スポーツ推進委員会	シャルマンキッズ子ども会
中央町 2 区町内会	北小学校区体育振興会	壺町田 1 丁目子ども会
東壺町田町内会	体育指導員会	芝本町子ども会
文教町 2 丁目自治会		東レよろい坂子ども会
文教町西町内会		東壺町田みどり野子ども会
文教町東岩崎町内会		ひばり子ども会
		三島市子ども会連合会

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

- 凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）
- △：H23.07.14 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」
 - ▲：H23.11.14 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」
 - ：H24.07.12 テーマ「みんなでふれあい創出」
 - ：H24.11.09 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」
 - ◇：H25.07.08 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」
 - ◆：H25.11.08 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」
 - ：H26.07.07 テーマ「防災訓練」「地域の連携」
 - ：H26.10.29 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、話し合いました。
テーマ「地域防災の連携強化の方法を考えよう！」（P6-8 掲載）
 - ◎：市の意見・回答

（※担い手略称 自治連合：自治会連合会、スポ推委：スポーツ推進委員、）

	現況	課題	担い手	結果・実績
1.	防災訓練			
	①訓練内容			
	<p>▲最近4年間は防災訓練の様子を項目毎にビデオ撮影しDVDに残している。</p> <p>◇◆青年部・商工会・しゃぎりの会に訓練内容案を提出してもらい、起震車・炊き出し訓練を中心に企画。（一番町）</p> <p>●◇◆地震発生直後を想定し、倒壊家屋からのチェーンソー・ジャッキを使った救出、担架による運搬、消火器、スモークハウス訓練実施。（中央町2区）</p> <p>●加茂川町1区・2区で合同訓練実施。2区だけで無洗米を使った炊き出し訓練を実施。炊き出しは十数年ぶりの試み。</p> <p>◆消火栓訓練を年2回実施。（加茂川町2区）</p> <p>●◇◆12階建てマンション。35m級の消防のはしご車による8階からの救出訓練と消防訓練を同時に行なった。はしご車は人集めにもいいので今年も実施予定。（シャルマンコーポ）</p> <p>◇◆5月に防災訓練実施。小学生5人に災害の怖さを伝えた。（壱町田2丁目）</p> <p>◇訓練はやっていない。町内の各委員で防災用品のチェック、ポンプの試験をやるうと考えている。（文教町2丁目）</p> <p>●高齢化が進み参加人数が集まらない。防災訓練ができないのが現状。（幸町、大宮町1丁目）</p> <p>◇◆起震車は来年度利用の申し込みで抽選もあり、役員が1年交替だと利用が難しい。スモークハウスも数不足。</p> <p>◎三島市内に救急車は4台しかない。阪神淡路大震災では8m以下の道路は全て通れなかった。消防団の第一義の活動は消火活動、救助活動ではない。三島は大火が心配されるので初期消火が極めて重要。</p>	<p>▲訓練を撮影しDVDにしておく訓練の参加者・反省点・改善点など全て分かる。引継ぎの時も前年の様子が分かるので、ぜひ参考にしてほしい。</p> <p>◎崩壊した建物からの救助にジャッキは有効。夜間の救出訓練や、取り壊す予定の家を使った訓練なども参考にしてほしい。</p> <p>◆消火器や救護等の基本訓練は毎年実施すべき。</p> <p>◇◆魅力のある訓練、楽しく参加できる体制をつくりたい。</p> <p>◎県の地震防災センターに研修に行ってみたらどうか。</p> <p>◆市は自治会が訓練に利用できる簡単なものと考えてほしい。</p> <p>◎大災害の時、救急車到着まで時間がかかると思うので、怪我人がいた場合には、自分たちで救出し、病院まで搬送する必要がある。そういうことを念頭に置いて、訓練を検討してほしい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>市</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇今年「黄色いハンカチ」を全世帯分購入予定。(シャリエ三島壱町田)</p> <p>◆「黄色いハンカチ」を全世帯分購入し配布した。(文教町東岩崎、文教町西)</p> <p>◆「黄色いハンカチ」掲出率は低下した。(大宮町3丁目)</p> <p>◆高齢者は「黄色いハンカチ」や笛などは紛失が懸念される。</p> <p>◎「黄色いハンカチ」は安否確認の道具。安否確認が容易になる。</p>	<p>◇「黄色いハンカチ」を配布する際に自治会への加入促進を図りたい。</p> <p>◆単身者、マンション・アパート世帯が掲示していなかった。</p> <p>◎各自の情報を貼っておく場所(冷蔵庫の扉など)に、一緒に保管してもらおうといい。</p> <p>◎訓練時も訓練に参加できない方が参加意思を示すことに使えるので、訓練から徹底してほしい。</p>	<p>自治会</p> <p>校区全体</p>	
<p>□小学生が興味を持つのは、段ボールハウス、簡易トイレの展示など。</p> <p>□徳倉・北上小学校区の中学生の参加はかなり多い。第4分団がやっている日頃の防災訓練の中身をきちんと覚えて、中学生が率先して一緒にやってくれる。(第4分団)</p>	<p>◇小学生のための防災訓練のプログラムを作って欲しい。</p> <p>□子どもは普段の生活にない物にすぐ興味を持つ(アルファ米試食など)。そこから始めてみると良い。</p> <p>□自治体によっては訓練の事前講習をして中学生が率先して訓練している地域もある。中学生のプログラムを特別に考えなくても良い。</p>		
<p>②参加促進のための工夫</p>			
<p>●組長に事前にヘルメットを渡し、半強制的に参加してもらった。</p> <p>●市長に来てもらい、マンションにおける災害の話をしてもらった。例年より参加があった。(シャルマンコーポ)</p> <p>●◇商店街が中心になるが参加する店主は少ない。回覧で防災訓練を周知徹底したが500世帯中40人程度の参加だった。(一番町)</p> <p>●お菓子や弁当の参加賞、備蓄食糧を配布したが、参加者数はほとんど変化なかった。効果は疑問。</p> <p>◇青年部・商工会・しゃぎりの会等の各団体に訓練案を提出してもらい、皆が喜んで参加できるよう検討・準備中。</p> <p>◇◆母親からの炊き出し訓練の申し出など、若い人の参加があった。炊き出しは子ども会と青年部が担当し、参加者約100名と倍増した。(一番町)</p> <p>□小中学生が少ない地区だが、最近参加者が増加。ずっと取り組んできたのが起震車と防災訓練終了後の懇親会。(文教町西)</p> <p>□小中学生を地域の訓練に参加させるためには、市内一斉に訓練をやっていただけかと思う。</p>	<p>●◇マンネリ化、参加者が毎回ほぼ同じことが問題。</p> <p>●◇他の自治体のマンネリ化対策や訓練参加率を上げる方法、内容について良い方法があれば知りたい。</p> <p>□皆がわいわい話し合える場を2時間ほど作ると、子どもも大人も参加する。何らかのアトラクションを考えていけば、必然的に小中学生の参加が多くなると思う。</p> <p>□中学生で参加すれば、高校、大学生、社会人になり、長く見ればだんだんと参加するようになる。突破口は中学生だと思う。</p> <p>□日を特定し参加できる条件を作った上で訓練を実施すれば、大勢が参加し意識も高まると思う。</p>	<p>自治会 市</p> <p>各団体</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◇各団体に訓練案に関して協力を依頼。</p> <p>⇒◆各団体の協力で参加者倍増。</p> <p>⇒□訓練後の懇親会を継続、子どもも大人も参加増加。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇平時・警戒宣言発令時・災害時、第2次避難所での対応等について勉強会実施。(文教町東岩崎)</p> <p>◇危機管理課からの出前講座で東北の体験の講話、AED、心肺蘇生などの勉強会実施。(中央町2区)</p> <p>◇東北の被災地視察の下見に行き、色々な話が聞けた。(芝本町)</p>	<p>なっても防災に関心を持ち、地域の防災訓練に参加すると思う。</p> <p>◇大震災では、日頃の訓練不参加者が亡くなったことを広く認識してもらいたい。</p> <p>◇勉強会に主に防災委員だけ参加するような状況になっているのが課題。</p> <p>◇東北視察を3町合併後の新体制で活かしたい。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◇自治会で防災の勉強会実施。</p>
④避難所の整備			
<p>○マンションは震災時非常に危険。(シャルマンコーポ)</p> <p>●◇9組中3組の組長が1次避難所の場所を知らなかった。(老町田1丁目)</p> <p>●1次避難所として使える場所がない。楽寿園の北に避難所の受付設置を考えている。(一番町)</p> <p>◇文教町2丁目は南北に長い。災害時1次避難所の近くにいるかどうかわからない。</p> <p>◆上岩崎公園で訓練を行うが電源がない。インバーター付き発電機が町内にはなく沢地消防団から借りることになった。(老町田1丁目)</p> <p>◆訓練場所の中央幼稚園跡(一次避難所)は常時鍵がかかり資材置き場になっている。(中央町2区)</p> <p>◇JRや鉄道利用者はJRの研修施設を避難所として利用できないのか。</p>	<p>○震災時、マンションから逃げる場所を検討中。</p> <p>●1次避難所をみんなが認知する必要がある。</p> <p>◆何かあった時のためにも上岩崎公園に電源を確保してもらいたい。</p> <p>◆市は災害時の対応を考えてほしい。</p> <p>◎避難所の指定は県が行う。県とよく話し合っていく。</p>	<p>自治会</p> <p>校区全体</p> <p>市</p> <p>自治会 市</p> <p>市</p>	
⑤災害への備え			
<p>●災害発生時、建物の倒壊の可能性、道路が通行できない、燃料がなくて車が動かない場合などが考えられる。(北小)</p> <p>●少ないが簡易トイレは用意した。(老町田2丁目)</p> <p>●災害時、消防車が不足する場合があります。(消防団)</p> <p>◇阪神淡路大震災が一番教訓になる。</p> <p>◇橋の水道管が漏水した。老朽化している橋が大災害に耐えられか疑問。(加茂川町2区)</p> <p>△観光客や商店客への対応も重要。</p>	<p>●昭和55年以前の建築物を把握し倒壊に備えておく。</p> <p>●町内会でジャッキ、リヤカー、一輪車、自転車などを用意しておくとうい。</p> <p>●トイレが問題。基本的には個人で用意してもらい、不足分を町内で補いたい。</p> <p>●可搬ポンプ、消火栓から放水できる備品を防災倉庫に用意し、自分たちで使えるよう訓練してほしい。</p> <p>◇日頃からの家具の固定、耐震補強、消火器の確認が大事。</p> <p>◆水・備蓄食糧(1,000食では不足)が今後の課題。</p> <p>◎水道管に限らず様々なものが老朽化している事を念頭におき活動してほしい。</p> <p>◎まず、近くの広域避難場所に誘導し、その後、指定の場所に誘導してほしい。</p>	<p>自治会</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
⑥要援護者の支援			
<p>○1 人暮らしの高齢者世帯についての情報を自治会に教えた。(民生委員)</p> <p>●◇家族人数、要援護者の情報共有のため、個人情報公開を承諾された方のリストを作成し公開した。(シャリエ三島壱町田)</p> <p>◆要援護者リストを受け取った町内は130町中90町と少ない。</p> <p>◆要援護者リストの使用方法や救助方法などの指導が一切ない。</p> <p>◆訓練時、要援護者リストをもとに各組長に要援護者がいる箇所を確認してもらった。(加茂川町2区)</p> <p>◆要援護者リストなどの町内の管理を心配する意見がある。(大宮町3丁目)</p> <p>□自治会が老人世帯の調査をやっている、今回その結果を老人会の方に流してくれた。(芝 J・B・C)</p>	<p>○災害時の安否確認を自治会に責任をもって行ってほしい。</p> <p>◆自治会連合会として各町内会長にリストをPRしたい。</p> <p>◆市はリストの活用方法をもう少しPRしてほしい。</p> <p>◇◆高層マンション居住の高齢者や1人暮らしの高齢者の把握が課題。</p> <p>◆他町内の要援護者リストの管理方法を知りたい。</p> <p>◆非常時に対応するため、自治会長他数名は個々の情報の把握が必要。</p> <p>□老人会もその情報に基づいて調査をしたい。具体的な要援護者の救助方法は、市などにご指導頂いて、できることを準備していきたいと思っている。</p>	<p>自治会 民生委員 自治会</p> <p>自治連合</p> <p>市</p> <p>自治会</p> <p>自治会 市 自治会</p> <p>老人会</p>	<p>⇒◇個人情報リストを作成し公開した。</p> <p>⇒◆訓練時リストをもとに各組長が要援護者のいる箇所を確認</p>
<p>○大場川が氾濫して避難した際、家に残りたいという高齢者がいた。</p> <p>◇要援護者に車椅子の援助が必要かどうかを確認した。(加茂川町2区)</p> <p>◆救護場所として中学校で借りられたのは一部屋だけ。ベッドもない。具体的な取り組みが必要。(加茂川町1区)</p> <p>◆要援護者を地域で救助する意識を持ちはじめている。</p> <p>□各要援護者の担当を決めていて、「黄色いハンカチ」が出ていない時や、いざという時には担当者が駆け付ける形をとっている。(文教町西)</p> <p>□要援護者に申し込まない方もいる。理由は「恥ずかしい」「人の世話になりたくない」など。こちらは「助けが必要では？」と思って援護したいのだが、できない場合はどうしたらいいのか。他町内の対応を知りたい。</p> <p>□一人住まいの方が多くなっている。もし倒れた場合、ボタンを押すと回転灯がつくなど、自己負担でもいいので市からそういったものを教えて頂きたい。</p>	<p>○家に残りたいという人をどうやって避難させるかが問題。</p> <p>◇要援護者や負傷者の安否確認や救助方法が課題。</p> <p>◇□災害発生が昼間の男性不在時、また夜間の高齢者の対応などが課題。</p> <p>◆救助用リヤカーや車椅子を購入したくても助成金不足。</p> <p>◆地域で救助するため各団体に協力をお願いしたい。</p> <p>◎救助を必要としない人達に関しては、封をしたリストを自主防災会に渡すので、万一の場合は封を開き安否確認をして、必要があれば救助をしてほしい。</p> <p>◎高齢者の非課税世帯には、市の緊急通報システムのサービスがある。ただ、災害時は電話や電気が使用できるか分からないので、使えるかわからない。</p> <p>□「非課税世帯」というのが問題。払える人と非課税との中間の人が多くいる。地域の課題の一つとして、「皆でできることは何だろう？」と、これから地域で考えていかなければいけなくなると思う。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>市</p> <p>各団体</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◇要援護者に車椅子の援助が必要かどうか確認した。</p> <p>⇒□各要援護者に担当者を決めている。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
⑦学校と地域の連携			
<p>◇◆夏休み前に子どもたちに各地区の防災訓練日程を知らせ参加を呼びかけた。参加カードなども考えている。(北小・北中)</p> <p>◇◆小中高校生の訓練参加者が増加した。学校の協力が大きい。参加カードや防災学習会の取り組みが効果的だった。</p> <p>◇部活動やスポーツ団体に加入している中学生にはなかなか強制できない。</p> <p>□平成25年度より参加カードを実施(北小)</p> <p>□参加証明書を出している。(北中)</p> <p>◇災害時子ども達が在校の場合は学校に残ることが基本。学校は耐震補強され安全。地域の安全確認後、引き取りまたは近距離なら連れていく。(北中)</p> <p>◇フェアキャスト使用。災害時には各家庭につながるまで固定電話・携帯電話・ファックス等を通して学校の情報を流す。(北小)</p>	<p>◆□学校からの生徒たちへ、訓練参加の呼び掛けを継続してほしい。</p> <p>◇中・高校生は戦力。できるだけ参加してもらいたい。</p> <p>◇中・高校生は東北の災害を視察した方がいい。</p> <p>◎在校時に震災があった場合、特に2・3年生男子は避難所準備等に参加させてほしい。</p> <p>◇地震、大雨洪水警報など出た時は自宅待機となる。協力、理解をお願いしたい。</p>	<p>小学校 中学校 高校生</p> <p>自治会 中学生</p>	<p>⇒◆学校から子ども達に訓練参加を呼び掛け参加者増加。</p> <p>⇒□参加証明書の取り組みを実施。(北小・北中)</p>
⑧北小防災学習会の実施			
<p>◇◆PTA主催で防災学習会実施。各町内会会長に先生になってもらい、第一次避難所への避難や自宅からの避難経路の確認を行った。</p> <p>◇□防災学習会は非常に勉強になったという声が多い。子ども達が全員参加でき、親も多数参加したので防災意識が高まった。防災訓練のPRにもなった。</p> <p>◇◆アンケートの結果、保護者の約半数が一次避難地や避難所を知らなかった。災害時には、各地域で自主防災組織を立ち上げて救助活動を行うことも知らない家庭も多く、学習会は好評だった。</p> <p>□昨年度まで「命の教育」ということで、地域の方と一緒に防災に取り組んできた。防災の火を消さないようにという気持ちで、頑張っている。(北小)</p> <p>□子どもを通じて各家庭と町内が連携できるような心がけながら、活動内容を考えている。(北小PTA)</p>	<p>◇□今後も北小と協力しやっていきたい。自治会も協力するのでぜひ声をかけていただきたい。</p> <p>◎子ども会や町内会に入っていない方が大勢いるので、災害時大混乱する。町内会としてどう対処するか話し合っ欲しい。</p> <p>◇□保護者が訓練に参加し、災害発生時の行動を理解することも重要。保護者が地域に興味を持つことで、防災教育、防災に対する意識が高まっていく。</p> <p>◆各自治会の規模や訓練内容が異なるため、目的の明確化や訓練内容が今後の課題。</p> <p>□防災に関しては、小学生は直接手伝うよりも、地域の方や保護者の方と顔見知りになることが一番だと思う。学校でも防災に取り組んでいるが、学校だけでなくその中に保護者に入ってもらう、また地域の方に活動を紹介し、学校へ来て頂き近所の方を知ってもらう等の機会を今後作っていきたく思っている。</p> <p>□今年は事情があり、防災学習はできなかったが、また違った形で地域の方と子ども達が顔見知りになる機会を作りたい。</p> <p>□子どもを通して親も参加することで、自治会長の顔がわかれば普段から声をかけやすくなる。</p>	<p>PTA 自治会 小学校</p>	<p>⇒◇PTA主催の防災学習会実施。各町内会長の協力があつた。</p> <p>⇒◇保護者の防災意識が向上した。</p>

	現況	課題	担い手	結果・実績
2. 地域の連携				
①顔の見える関係づくり				
	<p>○町内の50%以上が借家世帯。 ●ワンルームマンションが増え住民の世帯数は増えたが、マンション住人は町内会に参加しない。(大宮町1丁目)</p> <p>□横のつながりを持つことが大きいと思う。それにより、どこに誰がいるかわかり、災害時の救助につながっていく。</p> <p>□横のつながりはすぐにはできない。</p> <p>◎北小は、非行や犯罪が少し多い校区。</p>	<p>○借家の人は町内活動参加率がかなり悪いことが課題。(加茂川町1区) ●住人の構成が変わり、きずなづくりが課題となっている。 ◇単身者は把握できていないのが課題。(壱町田1丁目)</p> <p>□横のつながり、きずなづくりが本当に大事。それをどうやって養っていくのか、皆で考えられたらいいと思った。</p> <p>□まずは顔を合わせ、目的を持って前に進んでいくことで、力を合わせることにつながっていく。そういうステップでつながっていけるといい。</p> <p>◎安全、安心な地域にするためにも、顔見知りの方は声をかけあう地域づくりをしてほしい。</p> <p>◎コミュニティカフェ立ち上げの補助金制度もあるので、活用してほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p>	
	<p>○春の一斉清掃、夏のフェスタ、防災訓練への大勢参加が自治会長としてのテーマ。(大宮町3丁目)</p> <p>○一部の地区では高齢者が飲み会などで交流を持っているが、町内全体ではない。(中央町2区)</p> <p>○市と県の補助金を得て、集会所の建設に取り組んだ。(大宮町3丁目)</p> <p>○女性は社交的だが、男性は引っ込み思案。</p> <p>□楽しい場で顔を合わせて知り合いになろうということで、趣味を活かした同好会「ウォーキングとアウトドアを楽しむ会」を作り、6月から活動を始めた。(シャルマンコーポ)</p> <p>○高齢者世帯の家具に転倒防止器具がついているか確認調査実施。(民生委員)</p> <p>◇年配の方が多く、地域の人々の関係が希薄。(県営壱町田やまがみ団地)</p> <p>◇単独だとどこの子かなかなかわからない。(芝本町)</p>	<p>○皆が顔見知りになることをテーマにして和気あいあいとやりたい。</p> <p>○井戸端会議などを通じて近所の住民についての情報交換ができると良い。</p> <p>○来年からさらにふれあう機会を増やしたい。</p> <p>○共通の趣味を持って顔見知りを増やすことが大事。</p> <p>□健康目的だけでなく、三島の見どころを紹介しながら歩いた。意外に知らない場所があり、好評だった。今後も続けていく。</p> <p>○郵便物を確認するなどの見守りを徹底していきたい。</p> <p>◇日頃からお祭り、イベント等を通じて顔見知りになることが必要。</p> <p>◇ボランティアと町内会が連携し、集会所を利用した街中カフェを検討中。今年は準備期間。(シャルマンコーポ)</p> <p>○老人ホーム、企業との交流等、園内だけでなく外とのつながりをどう作っていくかが課題。(北幼稚園)</p>	<p>自治会</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒□趣味を活かした同好会「ウォーキングとアウトドアを楽しむ会」を結成。</p>
	<p>○「挨拶のこだま運動」と名付けて活動を行っている。(壱町田1丁目)</p> <p>◆北中に伺った際、以前はなかった挨拶が生徒からあり嬉しかった。</p> <p>◆スマートウェルネスの講演会に参加。日頃の町内の挨拶や住民情報が、孤立を防ぎ健康につながるという非常に役立つ内容だった。(中央町2区)</p>	<p>○「おはよう」の次の一言がほしい。</p> <p>◆挨拶・声かけは町内でもとても大事。</p> <p>◆積極的に挨拶できる環境を作りたい。きずなづくりにつながる。</p>	<p>校区全体</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
②住人同士の協力・助け合い			
<p>○焼却炉が築30数年経っており、生ゴミが全体の49%を占めるので焼却炉に負担がかかる。(環境美化推進員)</p> <p>▲ごみの減量化のためにいろいろなことができると思うが、皆に協力してもらうために、町内としてどうPRするかということが一番肝心だと思う。</p> <p>○北幼稚園前のいちよう並木の清掃をPTAで行っている。(北幼稚園PTA)</p> <p>□今年、園庭の芝生化を行なった。園児達と父兄と一緒に植えた芝生苗のポット、一つ一つがつながり始めたので、「皆と同じように、手をつなぎあって大きな芝生に成長するんだね」という話をしながら、成長を見守っている(北幼稚園)</p>	<p>○残飯を出さない食卓の実現を目指してほしい。</p> <p>▲焼却炉の改修で26億円かかることなどを、もっとアピールしたらよい。</p> <p>○いちよう並木の清掃を地域の方も一緒にできたら良い。</p>	校区全体	
<p>○町内 535 世帯中 200 世帯が東小校区、残りが北小校区になっている。(加茂川町1区)</p> <p>●子どもの減少で子ども会の活動は減ってきている。</p> <p>●三恵台の子ども会が、要援護者宅を一軒ずつまわって在宅かどうか地図にプロットし町内会で発表した。子ども会と自治会が連携したよい例である。(市子連)</p> <p>●災害発生時一番地域にいる確率が高いのは子ども達。</p> <p>□防災や地域の連携は、やはり人のつながりが非常に大事だと、改めて思った。</p> <p>◆子ども会(43名)をスカイツリー・上野公園に連れて行くなどの交流を実施した。(壱町田2丁目)</p>	<p>○町内に2つの校区と子ども会があって中途半端なことが問題。</p> <p>●自治会が子ども会の活動に協力することで、つながりを深めてほしい。</p> <p>□子ども会も親の事情で入れないという問題があるが、例えば防災という切り口で、子ども会だけではなく、学校や地域を巻き込んでいければ、地域の問題も解決するのかなと思った。</p>	自治会 子ども会	
<p>◇●校区の運動会も防災訓練も年々参加者が減少。高齢者と子どものきずなが大切であると考え、今年の校区の運動会ではその考えをとり入れた種目を作った。(スポーツ推進委員)</p> <p>◇運動会では中・高生向けの参加種目が年齢別町内リレーしかない。小学校を卒業してしまうと両親は運動会に出ない。(スポーツ推進委員)</p> <p>□スポーツ推進員と北小体育振興会では、年間色々な行事を作って参加を募っているが、参加者が少ない(2ヶ月に1回ウォーキングやグラウンドゴルフなど)。</p> <p>□校区の運動会には、昔は6,000~7,000人くらい参加があったが、今は3,000人くらい。子ども会が成り立たなくなってきたので、自治会自体の参加もなくなってきた。子どもがいなくても参加してくれるといいのだが。</p> <p>□人事異動で来る方は2~3年しかおらず、大半が単身赴任だと思われる。自治会運営自体、ここ数年危ういと感じている。地域の助け合いなどのレベルまでいかない。どうしたらいいか、いいアイデアがあるだろうか。(合同宿舎文京住宅)</p> <p>△農兵節普及会の話で、農兵節が高齢化のため衰退しているので、子どもたちに教えたいとのこと。お年寄りも踊るので、子どもたちと一緒に踊る取り組みなど三島の文化継承という面でもよい。</p>	<p>◇PTAと連携し自治会活動全体を広げていくことが必要。こういう場で意見を出し合い、活動が広がるという。</p> <p>□町内で回覧していても、末端まで伝わらない。自治会からのアピールをお願いしたい。</p> <p>□自治会、子ども会、学校、体育振興会&スポーツ推進員が連携をとって協力していかないと、これから余計、物事が進まなくなっていくと思う。協力していればお互いの顔がわかり、挨拶も校区に広がると思う。</p> <p>◎まず「校区の運動会に皆で行きませんか」と声をかけてほしい。町内の方が参加するように、声かけをしてほしい。</p> <p>△市からも、農兵節の普及を指導してほしい。地域づくり、交流のアイデアになるのでは。</p>	自治会 PTA スポ推委 市 各団体	